

まちだ納税貯蓄組合連合会 優秀賞

『つながる復興税』

町田市立町田第一中学校 3学年 仲 陽太

二〇二四年一月一日、石川県で能登半島地震が起きたとき、私は東日本大震災のことを思い出しました。そこで、私が東日本大震災について調べてみたところ震災からの復興のために復興特別税、通称、復興税というものが新たにつくられていたことを知りました。そこで私はその中の一つである、所得税に加算される復興特別所得税というものについて少し調べてみました。

調べているときに読んだ一冊の本には、復興特別所得税は、二〇一三年から二〇三七年まで課される税であり、震災からの復旧にだけでなく復興にも使われる税だと書いてありました。

私はこの本を読み、まず、課税期間の長さから震災の恐ろしさを改めて感じました。そして、復興はある一部の人だけが努力するものではなく、たくさんの人が力を合わせるものであり、その集大成が復興税なのだと思います。

実際、私は東日本大震災の被災者の方にインタビューをしているテレビ番組をみたことがあり、そこで被災者の方は、津波がきて、家が壊れ、町全体が暗い気持ちに沈んでいた状態から、ライフライ

ンが再整備され町全体に活気が戻ってきたのは当時からは考えられないほどの奇跡だと語っていました。そしてそれは、現場でのボランティアの方の支えと経済面での復興税の支えによるものが大きかったとも語っていました。

これを見て私は、復興税の、他の税とは違う特別な意義を感じました。消費税や所得税は、使用の目的が幅広いのに対して、復興税の目的は「震災からの復興」という一つに決まっているからです。復興税についてもっと詳しく調べてみると、実は復興税は、ある特定の目的のために課される目的税というものの一種だと分かりました。このことから、やはり復興税は復興のための唯一の税で、なくてはならないものなのだと考えました。

私は、今回の税の作文を書くことを通して税、主に復興税の大切さを知りました。復興税には、税を払うということを通して、皆さんの人とともに震災に立ち向かっていく、そして震災のあった場所に活気を取りもどしていく役割があると感じました。他にも、震災があったという事実を、日本人が忘れていけないように、深く印象づける役割もあるのではないかと考えました。

今、私自身に課されている税は大人に比べて少ないですが、日頃から、身近なところにある税が遠い場所で活かされているかもしれないということを考えながら、税と向き合っていきたいです。